

調布市二本松の歴史トピックス	
トピックス	概要
東京府公衆水泳場 (日本水泳界の中心地)	<p>大正10年(1921年)、東京慈善協会が、二本松の多摩河原に幅25M、長さ100Mの玉石敷きのプールを建設しました。両岸には数等の休憩所も整備されました。建設費用は、当時で八千円で翌大正11年には、コンクリート造りに改修され、8月12日には第一回全国女子水泳選手権、続いて全日本少年水泳大会、第二回全国各大学専門学校対抗競技会、9月16、17日には、第七回全日本選手権競泳大会(大日本体育協会主催)が開催されました。当時、京王線上石原駅(西調布駅)から、若宮八幡様の坂を降り、プールに至る田んぼ道には各新聞社の旗が立ち並び、電車の着くたびに観衆の列が続いたそうです。</p> <p>しかし、翌年の大正12年、関東大震災が襲い、プールは破損しました。</p>
中央映画撮影所	<p>多摩川1丁目にある東宝調布ゴルフコース、東宝日曜大工センター、公務員住宅の一体の敷地に昭和鍛工会社がありました。戦時中は軍需工場として戦車のキャタピラ等を製造していて、多くの学生や青年子女が働いていたそうです。終戦近い頃には、米軍の猛烈な空襲を浴びて、建物昭和31年(1956年)、中央映画株式会社が発足し、その撮影所は軍需工場跡を利用して、開設されました。撮影所は「煙突のある撮影所」と呼ばれました。</p> <p>この撮影所で、吉村公三郎、今井正、山本薩夫の三監督による「愛すればこそ」(1955年)、群馬交響楽団の活動を題材にした今井正監督「ここに泉あり」(1955年)、今井正監督「真昼の暗黒」(1956年)、家城巳代治監督「異母兄弟」(1957年)など、数々の名作が作られました。これらの独立プロによる映画運動はその後徐々に衰退し、中央映画撮影所は調布映画撮影所と名前が変わり、1960年ごろには建物も壊されたようです。</p>
今東光(直木賞作家)	<p>直木賞作家、中尊寺貫主、参議院議員など、小説家、画家、僧侶として活躍した今東光ですが、戦争末期の昭和20年春に渋谷の居宅が戦火で焼けて、現在の飛田給1丁目50番地に移住しました。上段記載の多摩川一丁目にあった昭和鍛工会社付属の青年学校の講師としての赴任がきっかけだったようです。学校では読書指導をしていたそうで、飛田給から多摩川まで20分を徒歩で通い、多摩川も良く散歩していたようです。翌21年12月に、23歳の「蜂谷きよ」と再婚</p> <p>今東光は、昭和26年までの4年間、飛田給の住まいで、数多くの小説、随筆を書き続けましたが、5年後の昭和31年に「お吟さま」で直木賞を受賞することになります。</p> <p>晩年は、週刊プレイボーイの極道辻説法で、若者の人生相談をやっていたので、文学ファンだけでなく、なじみの方も多いと思われます。</p>
砂利穴	<p>関東大震災の復興建設の骨材として大量使用されたのが多摩川の砂利で、多くの砂利穴で採掘されました。</p> <p>その跡地は、現在、東宝大工センター・ゴルフコースや府中市郷土の森、是政の多摩川競艇場、川崎の等々力緑地だったりします。京王多摩川駅は、はじめは砂利を運送するために開設されました。しかし大量の砂利採掘は、多摩川そのものにさまざまな悪影響を及ぼします。護岸堤防の破壊、河床面の低下による農業用水の取水難、水質汚濁による漁業に対する悪影響などがあげられます。昭和40年には多摩川全域で全面禁止になり、砂利採掘の歴史は幕を下ろすことになりました。</p>
上石原、二本松の地名	<p>石原は、多摩川の洪水後、旧河川敷に石が累々としたことが由来なようです。深大寺の住僧長弁により15世紀に書かれた「私案抄」に石原橋という橋名が出てきます。北条氏の「小田原衆所領役帳」には「江戸下石原海老名分」と出ています。</p> <p>二本松の地名は、甲州街道が整備された頃の慶長年間(1600年頃)の上石原古地図に、小字で登場しています。二本の松の木があったかは、定かではありません。</p>
編集、連絡先	<p>調布市多摩川二丁目 佐々木功(平成19年5月10日)</p> <p>二本松に関連する歴史について情報をお持ちの方は、このホームページのトップページから、メールを佐々木宛にお寄せください。</p>
出典	<p>たきおん41号(平成10年4月12日)アカデミー愛とぴあ 図説調布の歴史(平成12年3月31日)調布市 新・調布案内(平成13年3月4日改訂)調布市郷土博物館 まちの情報資料館(調布市市民活動支援センター) http://www.lib.city.chofu.tokyo.jp/machi/lib_eiga.htm</p>